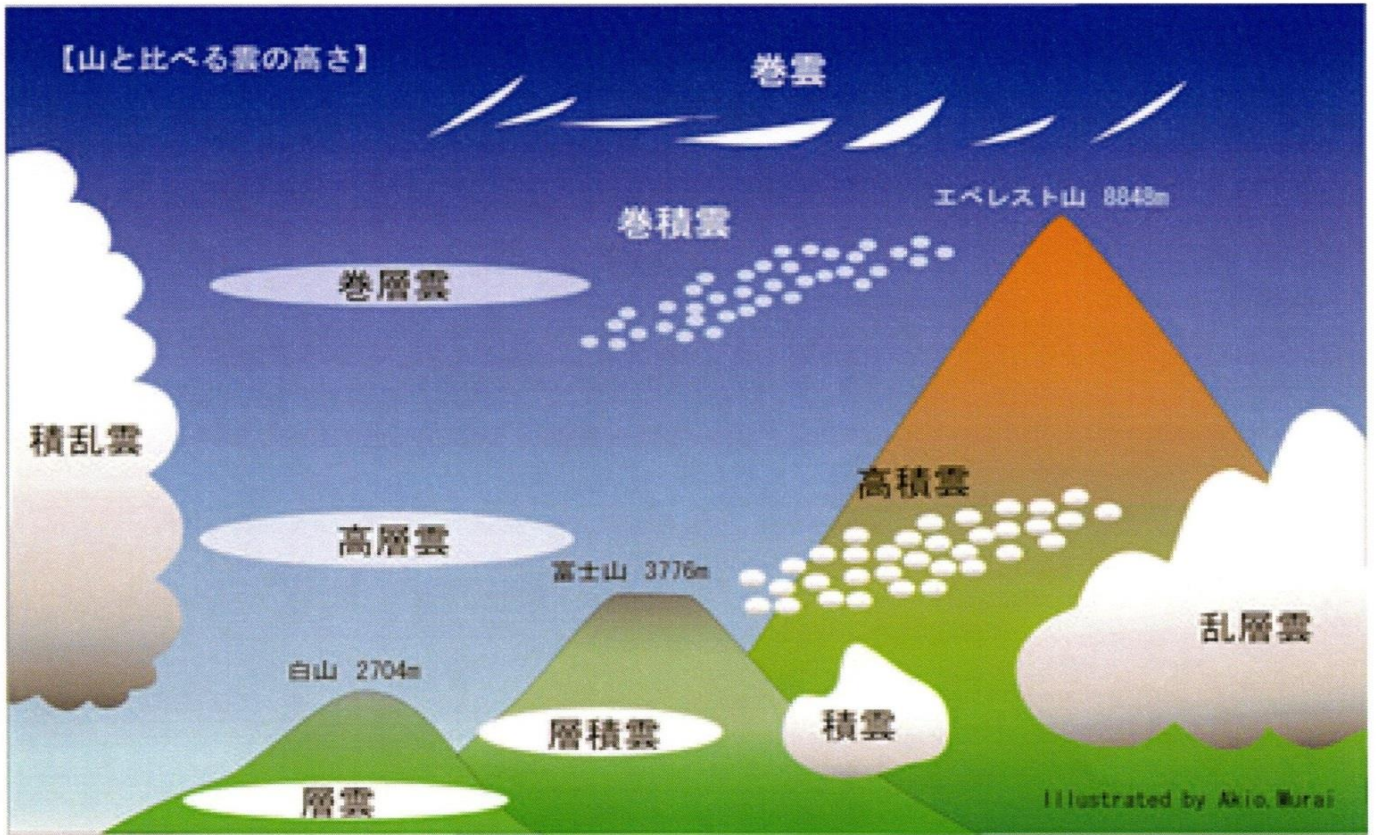
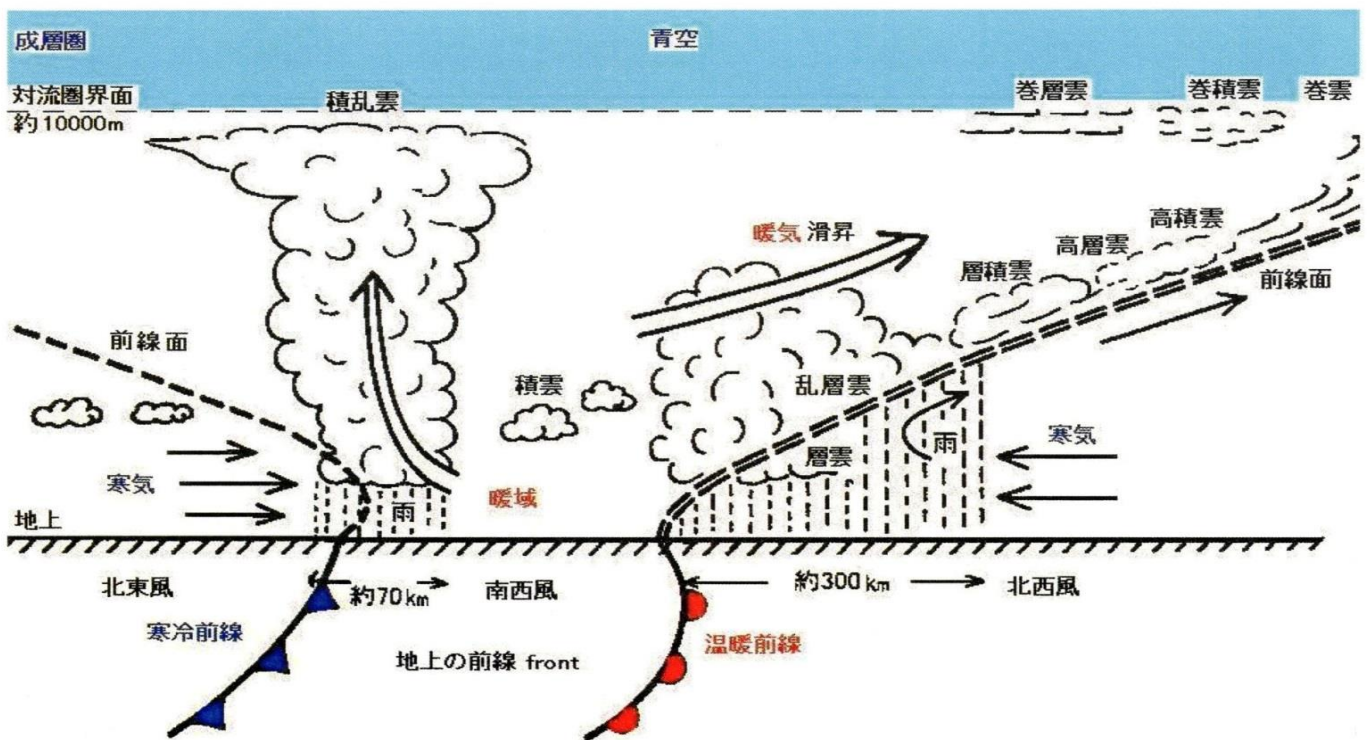


5) 観天望気

▼ 10種雲形と出現高度



▼ 前線の移動に伴い出現する雲形



※前線面の傾斜角度：寒冷前線で 1/50~100、温暖前線で 1/100~300 程度

▼ 悪天の兆しとなる雲形

1：巻層雲から巻積雲に変わったら注意！

巻層雲は、全空を覆うように現れるうすい雲。
この雲が太陽や月にかかると暈（かさ：光の輪のようなもの）ができることがあります。
この巻層雲が巻積雲（うろこ雲）に変わっていくと天気が崩れる傾向です。



2：登り竜の雨巻雲

巻雲には2種類あって、雨巻雲と晴巻雲があります。
どちらかを判断するのはなかなか難しいのですが、上の写真は雨巻雲で、山の上にある雲が登り竜のように天に向かってるのがわかります。
このような巻雲が現れると、天気が崩れていくことが多いです。



3：高積雲（ひつじ雲）が増えてきたら注意！

高積雲（ひつじ雲）は巻積雲（うろこ雲）のひとつひとつの雲の塊が大きくなり、雲の底が灰色っぽくなってきた状態です。
巻積雲と同様に、空気が乱れているときに現れるので、全天に広がっていくときは要注意です。



4：強風の証、レンズ雲（笠雲）

レンズ雲は巻積雲、高積雲、層積雲、高層雲などに見られ、上空の風が強いときに現れます。
このような雲が現れるときは、山の上では風が強かったり、天気が崩れることが多くなります。



5：雨の前触れ、ちぎれ雲

雲がちぎれたような形をしているときに呼ばれる雲で、特に暗灰色の雲の下にできている雲は、雨の前触れです。
速いスピードで流れ、形が激しく変わるときは、雷雨や突然の天候変化に注意が必要です。

